

祝 辞

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
会 長 山 東 昭 子

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会の諸事業の実施につきまして、全国の聴覚障害教育を行う特別支援学校(以下聾学校)の皆さま方よりご理解とご協力、並びにご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

ここに第55回全日本聾教育研究大会が、歴史のある自然豊かな島根県松江の地で島根県立松江ろう学校を主管校として開催されますことに心よりお祝い申し上げます。

今大会の大会主題は「子どもたちが自分らしく主体的に生きる姿を目指して」です。昨年来の新型コロナウイルスが、勢いを増す中、関係者の皆様は感染防止のため、開催方法について会議を重ねて検討してきたと聞いております。全国の先生方が顔を合わせる研究会が実現できなかったことは、本当に残念に思います。しかし、今年もリモートアクセスをして全国各地の聾学校と会場校とをウェブで結ぶことができました。会場校の先生方、中四国のご尽力に心から敬意を表します。

社会はコロナ禍で大きく変わり、働き方改革、毎日の生活のスタイルなども含めて常により良い生き方の選択を考えなくてはなりません。こうした中、これからの子供たちは、様々な方法で常に情報を知り、その情報を吟味しなければなりません。何が正しいのかをしっかりと判断するべく、情報を活用することが求められると思います。

それこそ主題にありますように子供たちが、主体的に生きる力を育むことの重要性だと思えます。社会の中で、課題を知りどう生きていくのか賢く学び続けなければならない時代に移行しつつあります。今後聾学校は多様な教育的ニーズに対応しながら変化の激しい社会の中で、一人一人の子供たちに合わせた課題を把握し、どうすればたくましく生き抜いていく資質・能力を育むことが出来るのかを研究し、実践していただきたいと思えます。

当協会は創立以来90年を迎えました。今年は方法を変え知恵を出し合って、事業を開催していくよう検討しています。今後予定されている事業は、公益財団法人JK Aの競輪公益資金による補助事業として、デジタルワイヤレス補聴システムの無償貸与があります。合奏コンクール、聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会も、開催の予定です。今後も聴覚障害教育の一層の充実・発展・振興を図ってまいります。皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びに、島根大会の開催にあたり、ご尽力くださった皆様方に深く敬意を表しますと共に、聴覚障害教育の充実に向け、全日本聾教育研究会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。